

つながる鎌倉エール事業（協働コース） 審査選考結果

事業名		審査項目								合計	結果
		公益性 ※	課題の解決 ※	効果・成果	役割分担	相乗効果	先駆性 専門性 柔軟性等	適正な予算	実現性 ※		
1	子どもがつくるローカルマガジン「ことごと」	3.6	3.6	3.6	3.0	3.0	4.0	4.2	4.2	29.2	採択
	担当課：地域のつながり課										
	団体：NPO法人マナビノキ										
2	野村総研跡地を魅力ある場所に プロジェクト	4.2	4.4	4.0	3.2	3.6	3.4	3.6	4.4	30.8	採択
	担当課：公的不動産活用課										
	団体：山桜を守る会										
3	世界に通じるコミュニケーション力啓発事業	2.6	2.6	3.0	3.4	3.6	3.2	3.4	3.6	25.4	不採択 (※印項目 基準未達)
	担当課：文化課										
	団体：言語交流研究所ヒッポファミリークラブ大船鎌倉										

※印の項目の平均点が3点以上で、かつ合計が24点以上の団体から上位3団体を採択。

鎌倉市市民活動推進委員会選考部会による講評

1 子どもがつくるローカルマガジン「ことこと」

- 雑誌の編集作業について、最終的にプロのクリエイターが作業する割合が多いと、子どもの自主性を奪ってしまうのではないかと懸念がある。「子どもがつくるローカルマガジン」とあるように、取材先や雑誌での情報の取り上げ方について、参加者である子ども自身が様々な人に話を聞いたり、議論したりすることで子どもたち自身が見つけ行動するような取組にし、“地域にある課題とはなにか”を自身に落とし込んでもらうような企画を練り上げてほしい。
- 担当課としては、協働事業を通じてどのように政策を進め、課題を解決したいのか、協働の意義を明確にしつつ、企画段階から参加し、教育的観点で公益性を高めるように努めてほしい。
- 団体と担当課のほかにも、市の教育部門や地域のステークホルダーなどとも連携・関わりながら取組を行ってほしい。

2 野村総研跡地を魅力ある場所に プロジェクト

- 団体の資金面、人的な側面から継続性を意識して取り組んでほしい。
- 環境整備という委託的な要素のみではなく、協働の取組として意義があるものに昇華するために、公共の場・空間を、市民のニーズに沿ってどのように創り上げていくか、市の政策的視点を基に団体と担当課が議論しながら行ってほしい。
- 加えて、団体の活動には地元住民や利用者を多く巻き込む視点があるとなお公益性が高まる。
- 団体が環境整備を行うにあたっては、市の管理責任も明確にしておくべきである。

3 世界に通じるコミュニケーション力啓発事業

- 団体として活動の実績が豊富であり、企画した講座を行うノウハウが充実している点は評価できる。
- 市との協働の取組としては、「参加者が楽しみながら異文化を理解する講座」の開催ではなく、具体的なアプローチ（実際に困っている外国人とのつながりをもたせるなど）を行う工夫があれば、公益性が高まり、実効的な課題解決の手法として評価できた。
- 担当課としても、市としての「多文化共生の課題」の本質を捉え、どのような政策を実行していくことが効果的かを明確にし、その内容を団体と協議したうえで協働事業に落とし込めることができると、より公益性が高まる取組となる。